

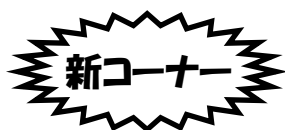
“鮮度一番！”

No.204

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / 新コーナー柳田国男『地名の研究』を読む
- 2 / ひとことコラム
- 2～4 / 運営委員会で話し合われたこと
- 4 / 会報への投稿を募集しています 編集後記



新コーナー

柳田国男『地名の研究』を読む

第1便

今回から、柳田国男の『地名の研究』を読んだ印象をお伝えしたいと思います。
『地名の研究』が出版されたのが今から丁度80年前の昭和11(1936)年1月。
地名の研究書としては、明治40(1907)年に完成した阿賀野市(旧安田町)出身の吉田東伍の『大日本地名辞書』と並ぶ業績として高く評価されています。昨年
の2月には、装いも新たに、講談社学術文庫の一冊に加わりました。古びることなく今
も読み継がれています。『地名の研究』は、明治43(1910)年から昭和8
(1933)年までの講演録や雑誌掲載の原稿をまとめたもので、出版まで実に26
年の歳月を費やしています。

三条や下田も登場する『地名の研究』は、日本各地のいろいろな地名を取り上げて
解説していて、各種地名辞典の解説が、実は『地名の研究』が種本という事もありま
す。そんな『地名の研究』を読みながら、楽しく地名の話をお伝えできたらと思っ
ています。(杉野真司・H28.4.5)

朝日歌壇に「介護者は誰でも天使になりたくてでもなれなくて今日も苦しむ」(横浜市 平間由紀子さん)をみつけた。この方は家庭で、あるいは職業として介護にかかわっているのだろうか。この心理状態がよく分かるから、我がことのように思えた。私は49歳から介護が始まり、いまや老々介護に突入した。一人で抱え込んでいると心も体もときには悲鳴を上げる。感情の揺れ幅が大きく、自分を処しきれない時にはどうするか。介護から、家から離れる時間が必要なのだ。私は家族や兄妹に助けを求め。どうぞ周りには介護する人にお任せにしないで、何かしら助けの手をだしてほしい。

ということで、東京の美術館を5カ所巡ってきた。友だちとおしゃべり、美味しいものを食べ、庭園を歩き、そしてあちこちの桜も見た。倒れそうなハードスケジュールだったが、2日間の極楽だった。

家に戻れば現実が待っている。頑張ろう。そして早や次の楽しみを計画している。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成28年4月6日(水)(AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

4月号から新コーナー、杉野真司さんの「柳田国男『地名の研究』を読む」がスタートしました。字数は、毎回400字。どんな展開でお話が進むのか楽しみです。感想や聞いてみたいこと等がありましたら、どしどしお寄せください。

次回の運営委員会は、連休中の5月4日(水曜日)9:30~男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

1.

「女と男のコミュニケーション講座」(3/6)を終えて

新潟経営大学市島清貴教授の「女と男のコミュニケーション講座~夫婦・親子・家庭内の誤解・我慢・犠牲を乗り越えて~」アンケートの集計結果を報告します。

参加人数は、50名、そのうち回答数は35名。

問3.

参加した動機は、「テーマに関心があるから」が27名と最多でしたが、「保育ルームがあるから」も2名あり、付記として「子どもを預けて安心して気軽に講座に参加でき、大変よかったです。今後もお願いしたいです」とありました。

問4.

セミナーの内容はいかがでしたか？(1)とても良い21名(2)良い13名(3)普通1名で、(4)あまり良くない0名でした。

続く「具体的にお聞きかせください」や「何でも自由にお書きください」へは、合わせて30ものご意見、ご感想をいただきました。

・具体的な事例が出て、お話に親しみがわき、身近な話しでとても聞きやすかった。あっという間の時間でした。

- ・人生50年以上の私、イエス・ノーがはっきり言える人になりたい。どうしたらできる？
- ・自分と他人のコミュニケーション・年齢差・地域差があり、難しくなっている。いっぱい良い話を聞かせてもらった。
- ・自分の価値観、ものさが正しい訳でないことに気づけた。
- ・日本人の甘えである「察してほしい」が良く分かった。
- ・「自分と未来は変えられる」・・・その通りと思います。
- ・また市島先生のお話しが聞きたいです。

2.

各種審議会等について

三条市介護保険運営協議会 地域包括支援センター運営部会報告

第2回地域包括支援センター運営部会が3月14日（月）、市役所第二庁舎集会室で開かれた。
議題

- (1) 介護予防給付ケアマネジメント業務の委託について
- (2) 平成27年度地域包括支援センターの実施状況について
- (3) 平成27年度地域包括支援センターの運営評価について
- (4) 平成28年度地域包括支援センター運営方針について
- (5) 平成28年度地域包括支援センター事業計画・収支予算（案）について

- (1) は報告のとおり了承された。
 - (2) は、5つの各圏域地域包括支援センターの具体的な取り組みの説明があった。
 - (3) は各地域包括支援センターの運営に対する自己評価の結果と市の評価を合わせたの報告があった。
 - (4) は平成28年度以降、地域包括支援ケアシステムの構築（総合事業の開始）方針について説明があった。
 - (5) は各地域包括支援センターの担当者から説明があった。
- (2)～(5) も了承され、閉会した。 (安室 久恵)

平成27年度第3回三条市男女共同参画審議会

3月17日10名の委員と3名の事務局の下執り行われました。

議題

- (1) 三条市男女共同参画推進プラン実施計画について
- (2) その他

全体で58の事業があり、全部を審議することができず担当者がB評価した講座から会を進めました。「両立支援講座」が実施されず「仕事と子育て両立支援事業助成金」制度を制定しただけで、評価をDに下げるべきとしました。農林課主催の「農業関係協議会等における女性の参画促進」は、にいがた南蒲農業協同組合の女性代表も知らされておらず、女性の参加も1回目は18人中3名。2回目は16名中女性0名。組織のあるJAに声を掛けてもらえば、女性の参加者も増えたのではとの意見が出ました。

審議会等における女性の参画に関する調査(女性委員が0人若しくは1人又は登用率が1桁の審議会を抜粋)の結果13件ありました。構成委員の資格を柔軟にして、女性の登用を増やすように要望しました。

(丸山 静江)

3.

燕三条エフエム放送（ラヂオは〜と 76.8MHz）ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週木曜日 11:00～11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30～20:00

4月のテーマ 「家族はつらいよ」

- ①家族は癒しの存在か
- ②役割分業のしぼり
- ③家庭内満足度チェック
- ④喧嘩力、仲良し力、境界力

メンバー：西方久子、安室久恵、野崎ミチコ、田辺とも子

少しの緊張感をもちながら今年度最初の収録を行ないました。3月6日に開催された、市島清貴さん（新潟経営大学教授）の「女と男のコミュニケーション講座」～夫婦・親子・家庭内の誤解・我慢・犠牲を乗り越えて～を受講したメンバーが、その内容を振り返りながら語り合いました。一人の抱える問題を皆で考えると「私だけではないんだ」と心が軽くなり、新たな発想が生まれ、「個人の問題は社会の問題」だと気づき解決への道が開けるのではないのでしょうか。そんな気概を持ったメンバーの「我が家では、私の場合は」と個人情報全開のトークをお楽しみください。（田辺）

4.

総会について

第21回総会を迎えるに当たり、役員改選と記念講演の講師を誰にするか話し合いました。新年度、どなたか運営委員に入ってください方はいらっしゃいませんか？熱烈募集！！です。

運営委員会終了後、記念講演の講師が決まりました！

講師は、この3月末、三条市市民窓口課課長を退職された捧裕一朗さんです。捧さんの歩んできた道とそれに続くこれからについてお話をさせていただけるのではないかと思います。

総会の日時は、6月4日（土）夕方開始となりますので、皆様予定をいれずに空けておいて下さると嬉しいです～（^^） /

◆会報 “鮮度一番！” への投稿を募集しています

“鮮度一番！”では、あなたの男女共同参画社会への気づきについての文章を募集しています。一人ひとりが体験した生活での気づきをみんなで共有できたらと思うのです。本名やイニシャルでの掲載、文字数等柔軟に対応いたします。

どうぞあなたの声をお寄せください。

《送り先》

- 三条女性会議 Eメール：info@joseikaigi.net
- FAX 0256-32-3679
- 〒955-0044三条市田島2-12-12

編集後記：

孫が小学校入学二日目で自家中毒とインフルエンザのダブルパンチ。点滴通いにてんてこまいの一週間が終わりました。緊張感と、たくさんのストレスを抱えていたことに驚かされ、そのうえ点滴の3日目に「ぼくパパと一緒にいい」の一言に強烈なカウンターパンチをくらってしまいました。おばあちゃん子守がんばらねば！

新コーナーがスタートして盛りだくさん、春爛漫の鮮度一番、どうぞ隅から隅までお読みください。（原）

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>